

船舶事故等調査報告書

平成22年3月25日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009函第73号	
事故等種類	運航不能（機関損傷）	
発生日時	平成21年10月12日 12時30分ごろ	
発生場所	北海道苫小牧港出光北海道シーバースの南東方沖1海里付近 （概位 北緯42°35.6′ 東経141°39.6′）	
事故等調査の経過	平成21年11月24日、本インシデントの調査を担当する主管調査官（函館事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	押船 第六 <small>よしつね</small> 義経丸、19トン	
船舶番号、船舶所有者等	282-12089、酒井建設株式会社	
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定	
死傷者等	なし	
損傷	左舷主機燃料ポンプ駆動軸連結部損傷	
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか甲板員5人が乗り組み、港湾工事の目的で、非自航式起重機船を押航して、苫小牧港第1区を出航し、北海道日高町富浜漁港に向けて航行中、平成21年10月12日12時30分ごろ、出光北海道シーバースの南東方沖1海里付近において、左舷主機（以下「主機」という。）の回転数が変動したので回転数を低速としたところ、ファンネルから白煙が生じたので、主機を停止した。</p> <p>船長は、自身が操船中であったため、甲板員に命じて主機の状況確認及び再始動を行わせたが、再始動できなかつたため、携帯電話を使用して本船の船舶所有会社に状況を報告したうえ救援を要請し、本船及び起重機船は来援したタグボートにより苫小牧港1区にえい航された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 4、視界 良好</p> <p>海象：波高 約2m、波向 南西</p>	
その他の事項	<p>本インシデント後、修理業者による点検の結果、主機燃料噴射ポンプの駆動軸連結部取付ボルト（鋼鉄製、ボルト径M14の六角リーマボルト）が脱落し、同ボルトに共締めされていた調整板（黄銅製、厚さ0.1～1.2mm、以下「調整板」という。）12枚のうち数枚が、ボルト座の当り面にき裂を生じていることが確認された。</p> <p>調整板は、本船が新造された昭和63年6月以降、一度も交換されていなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>不明 あり なし</p> <p>本船の主機は、苫小牧港第1区を出航する際には、異状はなかつたものと考えられる。</p> <p>本船は、苫小牧港第1区を出航した後、主機燃料噴射ポンプの駆動軸連結部の調整板に長期間の使用及び振動による金属疲労のためき裂が生じ、</p>

	<p>隙間ができたことにより、取付ボルトが緩んで脱落した可能性があると考えられる。</p> <p>本船は、主機燃料噴射ポンプの駆動軸連結部取付ボルトが脱落し、燃料噴射ポンプの噴射タイミングに大幅なずれが生じたため、主機回転数が変動し、主機をいったん停止した後の再始動が不能となった可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本インシデントは、本船が、苫小牧港第1区を出航し富浜漁港へ向けて航行中、主機燃料噴射ポンプの駆動軸連結部取付ボルトが脱落して噴射タイミングに大幅なずれが生じたため、主機の再始動が不能となったことにより発生した可能性があると考えられる。</p>